

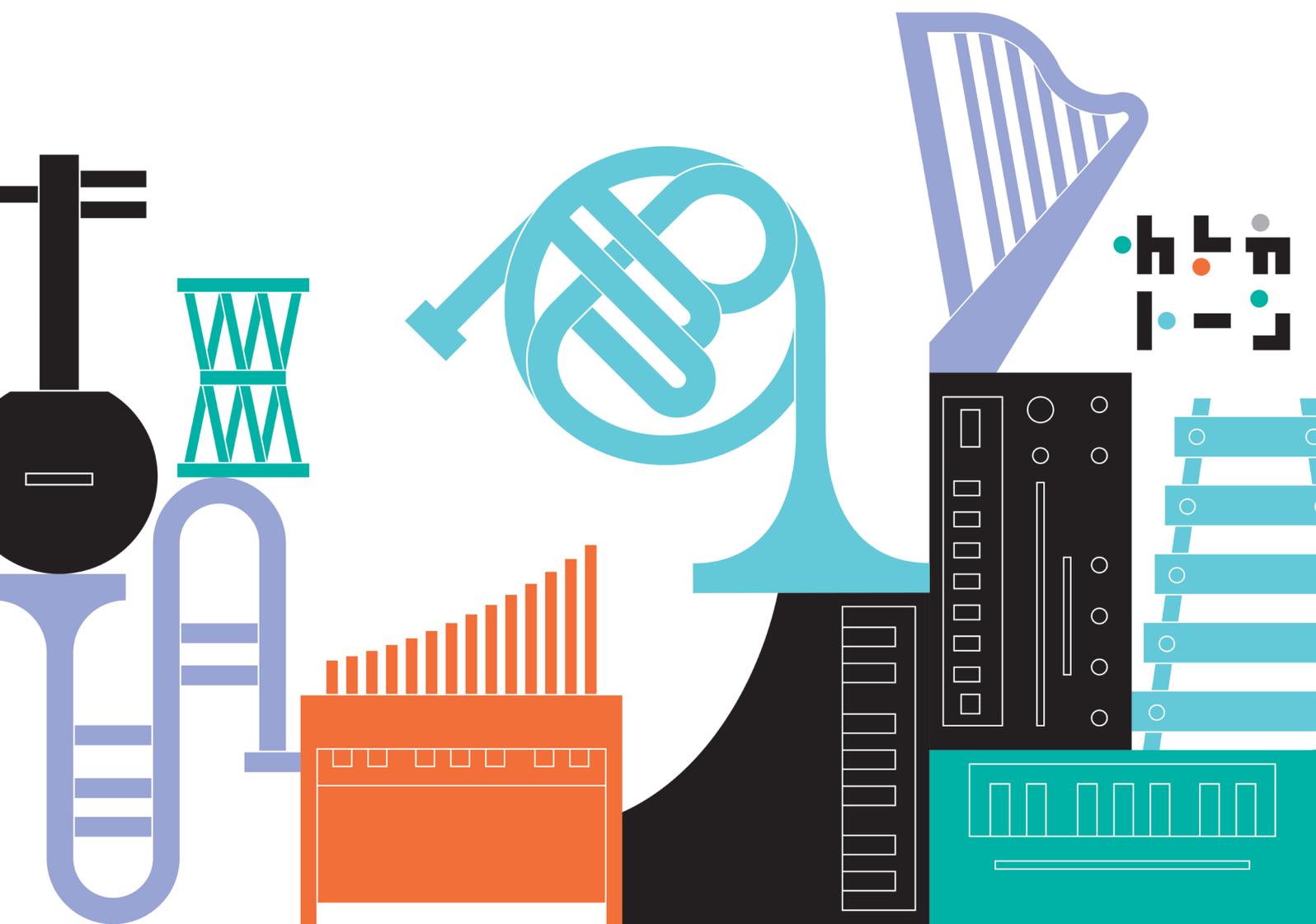
「中学生の音楽1」(令和3年度用～)
p.40「Let's Create!」展開例

「カトカトーン」の活用例や
オススメ情報をお届けします!

カトカトーン 通信

vol. **3** 改訂版

教育芸術社



Let's Create!

構成を工夫して、
3つの場面の音楽をつくろう。

SUPPORT

課題制作のために事前に設定された ktk ファイルは、下の二次元コードからダウンロードできる。事前に生徒に配付しておくとうい。



STEP1

ktk ファイルを開く

カトカトーンを開き、
【ファイルを開く】を選ぶ。



「1nen_letscreate (.ktk)」という
ファイルを開く。



1nen_letscreate.ktk

POINT

- 「こんな音を出したい」という思いをもち、それを表現するためにふさわしい音素材を探していくという過程は、音の特徴を捉え、感性を働かせる大切な機会となる。
- 学校現場では、準備が難しかったり、人数分を用意できなかったりする楽器もあるが、カトカトーンを用いることでさまざまな音素材に出会うことが可能となり、音の知識や特質を知る機会となる。

SUPPORT

- ②の画面左下にある【すべての楽器を見る】をクリックすると、①の画面に切り替わる。

STEP2

教科書の2つの風景からどちらかを選択し、 その場面に合う音素材を探す

音素材を探す(探す方法は2通り)。

① [楽器選択画面] の操作

楽器のアイコンをクリックすると、それぞれの音色を確認することができる(旋律楽器の場合はピアノの鍵盤が表示される)。



② [楽曲編集画面] の操作

楽器名をクリックすると、それぞれの音色を確認することができる(旋律楽器の場合は音名が表示される)。



POINT

カトカトーンを用いる場合でも、STEP 2 と STEP 3 を交互に繰り返して試行錯誤しながら、思いや意図をもって創作することが大切である。

SUPPORT

- 選んだ音素材や表現したい音のイメージに応じておたまたまチョップの設定を変更する必要がある。
- 設定よりも長い音価のノート(音)を入力する場合は、入力後、そのままのばしたい分だけ右にドラッグしても、ノートの長さを変更することができる。
- パレット** を開き、画面左下の【トラック数設定スライダー】の目盛りを上下することで、使用するトラック数を増減することができる(最終ページ参照)。
- BPM(テンポ)や拍子を変更したい場合は、**ルール** から設定することができる。
- ルーム(小節)数の増減をしたい場合は、**インサート** から設定することができる。

STEP3

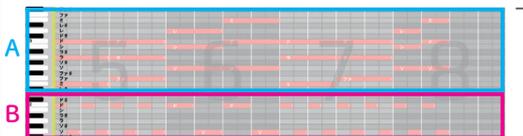
強弱や構成を工夫しながら音楽をつくる

場面に合う表現したい音を打ち込む。

※本資料では、風景2「海」を選択した場合を例として解説をする。

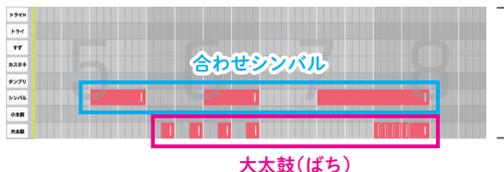
	打ち込み例	音素材、構成の工夫点の例
はじめ	▼トラック1：チューバ 	<ul style="list-style-type: none">●遠くのほうから船が徐々に近づいてくる●見える船の大きさ(小さい) チューバとアコーディオンを選択して船の重厚さを表現した。また、徐々に音を重ねることで、遠くから少しずつ船が接近する様子を表現した。
	▼トラック2：アコーディオン 	
	▼トラック3：コーラス 	<ul style="list-style-type: none">●エンジン音の工夫 迫ってくる対象物が乗り物であることを聴き手に感じてもらうために、エンジンのような音のリアルさを追求し、コーラスの音を追加した。

▼トラック4：ティンパニ



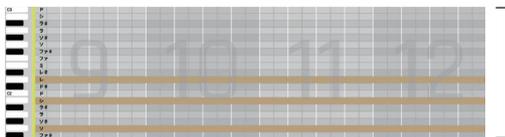
- 船が目の前まで近づいてくる
- 見える船の大きさ(大きい)
迫力を出すためにティンパニを選択。
A部分：和音の動きを打ち込み、大きな船が進行する様子を表現した。
B部分：打ち込む音価に変化を加えることで迫ってくる臨場感を表現した。また、音程を跳躍させることで躍動感も演出している。

▼トラック5：音楽室キット



- 水しぶきを上げている様子
- 迫力を強調
合わせシンバルを選択することで水しぶきを表現し、無音の部分で動きにメリハリを付けた。また、ティンパニとは違った打音を加えて迫力を増すために大太鼓(ばち)を加えた。

▼トラック2：アコーディオン



- 想起
「はじめ」で使用したアコーディオンを再度使用することで、構成のまとまりを出すようにした。

▼トラック6：チューブラーベル

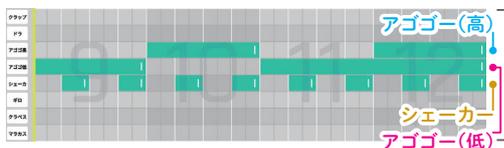


- 船が遠ざかっていく様子
チューブラーベルを単音で鳴らすことで、離れていくもの寂しさを表現した。
トラックを2つに分けたのは、音が鳴る度に音量が下がっていくようにするため。【トラックミキサー】でトラックごとの音量調整を行い、ノートを重複させることで最初の音を強めるようにした。

▼トラック7：チューブラーベル



▼トラック8：パーカッションキット2



- 煙突の煙
もくもくと煙突から煙が出ている様子をシェーカーで表現している。アゴゴーはチューブラーベルと同様の目的で使用した。

つくったデータを適宜保存する。



POINT

- 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴を理解しながら、表したいイメージに向けて創意工夫していくことが大切である。
- 拍節的な作例を示しているが、ルーム(小節)を気にせずにノートを打ち込むことで、拍節的ではない音楽を創作することも可能である。
- 取り組みやすいよう、作例のような和声に基づいた音の重ね方ではなく、トーン・クラスターのような表現を取り入れてもよい。

SUPPORT

- 場面ごとにテンポを変えたい場合は、変更したい箇所の【ルールトラック】上のルームをクリックすることで、途中からルールを変更することができる(最終ページ参照)。設定が完了すると、下のようなアイコンが【ルールトラック】に表示される。

▶ 160

- カトカトーンでは、音の強弱調整がトラックごとになるため、特定の音を強くしたい場合などは複数のトラックを用意して、下記のように工夫することで強弱を付けることができる。
- ①【トラックミキサー】()を調整して、トラックによって音量に差をつける(最終ページ参照)。
- ②同音のノートを別トラックに重複して打ち込む。

SUPPORT

ある程度まとまったところで ktk ファイルを保存しておくとうよい。なお、保存するたびに新しいファイルができ、上書きされないため、ファイル名を変えるなど工夫をして管理する。

STEP 4

つくった音楽の全体の構成を確認する

場面設定と照らし合わせながら再生して、表現したい音楽になっているか確かめる。音色や構成の再検討を行ってもよい。

中間発表をして、つくった音楽について意見交換をし、それを参考に3つの場面の音楽を完成させる。

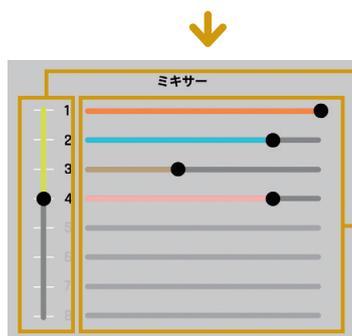
SUPPORT：操作上の補足説明
POINT：指導上のポイント
ADVICE：発展的な内容

発展的な活動の例

- 自分の好きな画像(写真、イラストなど)に合わせて音楽をつくってみよう
創作活動のフィールドを学校全体に広げ、生徒がそれぞれタブレットで好きな写真を撮影して、それにふさわしい音楽を創作する活動、または、教科横断的な活動として、美術の授業で制作したイラストに合わせて音楽をつくる活動などが考えられる。

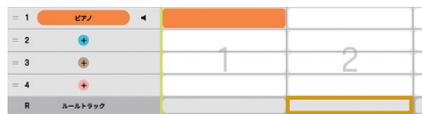
操作方法

トラック数の設定方法、及びトラックごとの音量設定方法



- 【トラック数設定スライダー】
トラック数の増減を行う。目盛りを上下することで、使用するトラックの数を1～8の間で設定することができる。
- 【トラックミキサー】
トラックごとの音量の調整を行う。トラックごとの【スライダー】を使って値を設定する。
※設定は音で書き出した際にも反映される。

楽曲の途中でのルール（テンポや拍子など）の変更方法



変更をしたい箇所の【ルールトラック】上のルールをクリックする。なお【ルールトラック】の表示/非表示は「ルール」から設定することが可能。



左のような画面が開き、楽曲の途中から「調」「拍子」「BPM (テンポ)」「スウィング」の設定を変更することができる。



変更を加えた項目についてのみ、【ルールトラック】にアイコンが表示される。変更した項目は次の変更があるまで設定が保持される。



本編でつくられた
ファイル



その他の作例



使い方・資料
(マニュアル)

本資料の二次元コードからアクセスできるデータは、以下の URL からご覧いただけます。

<https://www.kyogei.co.jp/katokatone/info/>

「カトカトーン」の詳細は右のウェブサイトをご参照ください。



ADVICE

カトカトーンは、学校現場が抱えるハード面での制約を取り除いたり、教科横断的な学びの推進が期待できたりと、さまざまな音楽活動につながるポテンシャルを持っている。また、その特性を活かし、ICT コンテンツの利点を活用した発展性のある授業を展開していくことも可能である。

カトカトーン4つのポイント

- WEBブラウザを通じて無料で使用できる
- 簡単な操作で打ち込みができる
- 100種類以上の音を選べる
- つくった音楽を共有できる



2024年4月発行

株式会社 教育芸術社

〒171-0051

東京都豊島区長崎1丁目12番14号

Tel : 03-3957-1175 (代)

Fax : 03-3957-1174

